

四季を通して出現し、出現盛期は冬期から春期。出現個体の全長範囲は16.5-39.1 mm。全長組成は図-11に示した。モードは20.1-22.0 mmにある。

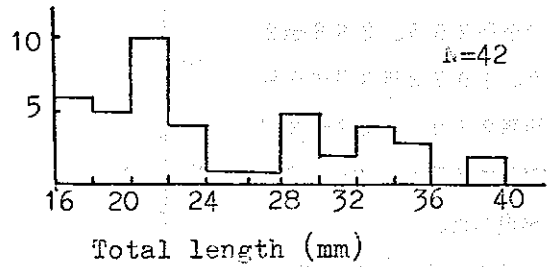


Figure - 11 Total length composition of *Centrobranchus nigro-ocellatus*.

Lampanyctus niger

GÜNTHER トンガリハダカ

(1回出現、1尾)

1974年5月にA-3で全長35.1 mm 1尾が出現した。

Taaningichtys minimus TANING (8回出現、13尾)

秋期から冬期にかけて出現し、出現盛期は冬期、本種の全長範囲は5.5-7.5 mmでまだ発光器が出現していない。他種との違いは、他種が夜間に出現するのに対し、ほとんど春間に出現し、また他種が沖合域に多く出現しているのに対して、沖合域はもちろん湾内まで出現した。

Myctophidae gen. spp. ハダカイワシ科種不明 (81回出現、534尾)

Table - 6 Comparison of tows and catches of Myctophid larvae in day tows, night tows, dusk and dawn tows.

	Larval net			Marutoku net		
	A Number Tows	B Number Catches	B/A	A Number Tows	B Number Catches	B/A
Day	20	83	4.2	10	23	2.3
Night	18	307	17.1	18	51	2.8
Dawn						
Dusk	10	56	5.6	2	3	1.5

発光器が完全には出現していないシラスの段階で、発光器の数、配列等により種の同定ができなかった個体である。四季を通して出現し、出現盛期は冬期である。時刻別出現状況は表-6のとうりである。ハダカイワシ科の発光器の完全な幼魚は昼間は深層に、夜間は表層に垂直移動を行なう。今回のそれらの出現も夜間に限られた。またそれらは運動も大きいので口径45 cmの丸特ネットの垂直びきでは採集されにくい。それに比べて発光器が不完全なシラス期の稚仔魚は運動力が小さく浮遊生活をしており、そのため稚魚ネットの表層びきでは夜間、昼間をとわず採集された。しかし稚仔魚でも表-6で明らかなような稚魚ネット、丸特ネットとも夜間に多く出現した。

10. *Palalepidae* ハダカエソ科 (13回出現、14尾)

Palalepidae gen. spp. ハダカエソ科種不明 (13回出現、14尾)